

## アラスカと大雪山② デナリ国立公園

星野道夫さんの写真に憧れ、長年の夢だったアラスカにたどり着き、デナリ国立公園（以下、デナリ）を目指しました。

デナリは、たくさんの野生動物が暮らし、北米最高峰のデナリ山（標高6,190m）を有するアラスカで最も人気のある自然豊かな場所です。星野さんの写真もここでたくさん撮られています。

テントを背負って気ままにぶらり旅…の予定でしたが、野生動物と自然環境保護のため、たくさんの制約がありました。

広大な公園の中で車が走れる道路は一本だけ。それも一般車両は乗り入れ出来ず、国で管理するバスに乗って行きます。

バスもキャンプサイトも事前予約制。1カ月以上前でない予約が埋まってしまうこともあります。クマを誘引する可能性があるため、テント内の飲食は禁止。食料や臭いのあるものは、クマ対策のフードロッカーに保管など…。ここは野生動物が暮らす場所で、その秩序を人間が壊してはならないという観点からさまざまなルールが作られ、昔と変わらない環境が保たれています。

バスやキャンプサイトなどと無機質な言葉が並び、なんだか星野さんの写真のイメージと違う感じもしますが、普段日本の国立公園で働く私には、デナリの厳格なルールや人間の受け入れ体制、レンジャー



Nature Column (ネーチャーコラム)  
自然ガイドなどで活躍する人たちをリレーしています。



朝焼けに赤く染まるデナリ山（昨年7月3日午前3時57分）

が300人も居てきめ細やかな管理が出来ることなど、アメリカの国立公園の制度がうらやましい…と感じる場面がたくさんありました（大雪山国立公園ではレンジャー3人、アクティブレンジャー4人）。

星野さんは飛行機のセスナ機をチャーターし、バックカントリーキャンプ（キャンプ場外での野営）をしていました。クマやオオカミと遭遇した時の対処法、川の渡り方、トイレの仕方などをレンジャーから事前に講習を受けると、バックカントリー許可証が発行され、キャンプ場外での野営をすることが出来るのです。

環境省東川自然保護官事務所アクティブレンジャー 渡邊あゆみ



## 「アリスアン」、月一回のお楽しみ

東川町国際交流員（CIR） ファティシナイファティマ

インドネシアにいる母方の親戚の集まりがあり、写真が送られてきました。真ん中にうれしそうなお顔で扇子の形にしたお金を持っている母の姿が見えました。「ああ、『アリスアン』で母が当たったのだな」とすぐ分かります。昔は何か買って欲しいモノがあったら、母に「アリスアンが当たったら、買ってあげるよ」とよく言われたものです。



やっている人はいるのでしょうか？他の国際交流員にアリスアンの話をしたら、タイにも似たような制度がありました。でもお金をもらった人が最後まで払わず逃げたりしているケースもあり、インドネシアのように良いイメージだけではありません。アリスアンはメンバー同士の信頼あつてのことですから、インドネシア人はまったく知らない人や信頼できない人とはアリスアンを行いません。

インドネシア人なら、老若男女を問わず誰でも参加したことがあると思います。日ごろ仕事で忙しいインドネシア人にとって、お金をもらうことよりも親戚や近所とのコミュニケーションを深める場として、月一回のお楽しみですね。

複数の方が一定の金額を持ち寄り、集まったお金を総取りする人をくじ引きで決めます。これは全メンバーがもうらうまで続きます。いつ誰が始めたかは不明ですが、アリスアンはインドネシア人の社会生活に欠かせないものになりました。

調べたら、日本にも似たようなシステムがありました。鎌倉時代に始まった庶民同士の金融制度で「無尽（むじん）」や「頼母子（たのもし）」と言われ、現在でも山梨県でまだ行われているそうです。北海道民でも

昔のアリスアンはお金に限られていたが、現在は進化していて、モノも存在するようになりました。例えば「ブランド靴のアリスアン」や「旅行券のアリスアン」などがあります。皆さんなら何のアリスアンが良いですか？